

平成30年9月27日

## 【平成30年度第2回（28回）セミナーのご案内】

日 時：平成30年12月1日（土）13：00～16：00（12：30から受付開始）

場 所：日本特殊陶業市民会館 第1会議室

名古屋市中区金山1-5-1 TEL：052-331-2141

JR・名鉄本線・地下鉄名城線「金山駅」より徒歩約5分

テーマ：「ニーズに応える工夫でよりよい点字教科書を」

内 容：今日の点字教科書・教材の提供は、各地域の点訳ボランティアグループの方々に支えられています。その歴史は長く、パソコン点訳が普及する前から教材支援をされてきたグループも多数あります。文字だけでなく、図の説明や、実際に図を描いたりする作業もこなされてきています。依頼を受けて完成するまで、各グループで工夫している点、課題など、これまでの経験を元にお話いただきます。

また、ボランティアグループとやりとりをしながらインクルーシブ教育を受けた当事者の方のお話も合わせてうかがいます。現在のインクルーシブ教育における点訳ボランティアの存在を再確認します。

プログラム：

12:30 受付開始

13:00 開会挨拶

13:10 点訳グループ事例報告1（点晴会）

13:40 点訳グループ事例報告2（レンゲの会）

14:10 点訳グループ事例報告3（桑名点訳会）

休憩

14:55 当事者の事例報告（橋本育実氏・橋本淑江氏）

15:35 フリートーク

15:55 閉会挨拶

16:00 終了

定 員：90人

参加費：会員500円、非会員1,000円

お申し込み・問い合わせ：

11月20日（火）までに下記までお申込みください。

その際、お名前、所属グループ、連絡先をご連絡ください。定員になりしだい締め切らせていただきます。

名古屋盲人情報文化センター 藤下直美

[e-mail:m-naomi@nagoya-lighthouse.jp](mailto:m-naomi@nagoya-lighthouse.jp)

<tel:052-654-4441>（図書館事業部直通）

## 【平成30年度第1回（27回）セミナーのご報告】

日 時：平成30年6月16日（土）13時30分～16時30分

場 所：日本点字図書館3階多目的室

テーマ：「どうなる？視覚障害児童・生徒の学習環境！」

6月16日（土）、日本点字図書館において、セミナーを行いました。前半は、石川県で初めてインクルーシブ教育を選択された、小松市立稚松小学校に通う柴田理央さんの学校生活についてお母さんの久子さんからお話していただきました。後半は、「学校教育法等の一部を改正する法律案」に基づき、デジタル教科書が本格的に学校で使用されることから、視覚障害児童・生徒のアクセス環境を検証し、文部科学省の方にもお越しいただき、フリーディスカッションを行いました。

柴田さんの講演は、理央さんのご挨拶で始まり、会場の空気をいっきに和ませてくれました。理央さんは現在小学校2年生。弱視学級で、担当の先生とマンツーマンで学習しています。国語、体育、音楽、図工は通常学級で学びます。困っていることは、異動、着替え・食事などの行動に時間がかかる、だれが周りにいるのか分からないということ。

地域の幼稚園に通園し、同世代の子どもと学び遊ぶ楽しさを知りました。もともとご両親は小学校からは盲学校への就学を考えておられましたが、地域の子もたちと学ぶ理央さんの姿を見て、徐々に地域の学校への入学を考えるようになりました。しかし、石川県内にはこれまで点字使用のお子さんがインクルーシブ教育を受けた例がなく、ご両親は情報を得るために、あちこち県外の学校に足を運びました。

就学について、石川県立盲学校の先生に相談すると、応援しますと後押ししてくれたそうです。しかし、教育委員会に行くと、盲学校に行くよう勧められるばかりでした。なんとか入学したいという一心で、ご両親はインクルーシブ教育を求める要望書を教育長に提出したり、何度も話し合いの場を持つなどして、教育委員会の理解を得ようと必死に働きかけました。全て希望通りとはいきませんでした。3月に入ってようやく、これまで抱えてきた願いがかない、理央さんの地域の学校への入学が決まりました。

入学後、弱視学級に席をおくことになった理央さんは、周りの子どもたちから「ほんとうに目が見えないの？」、「食事はだれに食べさせてもらっているの？」といった質問をぶつけられました。これもいつもいっしょに行動していないから生じることなだにご両親は考えます。そこで、児童館に行って宿題やピアノの練習をするようにしたところ、自然と友達ができ、みんなで遊びに行くなど交友関係が広がっていきました。

一方、1年生のころは教材は地元のボランティアグループや久さんが手作りで用意していました。点字については、入学前から自宅で久さんが出す点字のクイズを解いて覚えたり、元・筑波大学付属視覚支援学校の大内先生と出会い、読み書きを習得しました。また、布の絵本をボランティアグループで作ってもらい触ったり、視覚障害の方から点字を教えてもらったりしていました。そして、今後のことを考え、2年生から盲学校に編入することも考えましたが、集団生活だからこそ学べる相手への思いやりや競争心といったことの大切さを感じ、何より、学校の友達とともに卒業したいという理央さんの思いから継続を決めました。

講演は、視覚障害教育においてセンター校の機能を果たす盲学校の教員をもっと増員してほしい、また、見える・見えないという垣根を超えて、さまざまな子どもたちがいっしょに学べる社会になるよう、もっと教育でも多様性を認めていくべきだという言葉で締めくく

れました。これまで視覚障害教育の専門性を培ってきた盲学校と、社会性を養える地域の学校とがうまく融合できるよう、理央さんの成長を通して節に願っておられました。

続いて、日本点字図書館の澤村潤一郎氏によるデジタル教科書とマルチメディアデイジーの実態と問題点について発表がありました。

このほど、文部科学省から提示された、「学校教育法等の一部を改正する法律案」において、2020年度から、障害のある児童・生徒にも紙の教科書に加えてデジタル教科書を使用することが明記されました。これまでは発達障害や聴覚障害の児童・生徒の使用が中心とされてきましたが、今後は視覚障害児童・生徒も使用する可能性も出てきたわけです。そこで、デジタル教科書のサンプルを使って、実際に使いやすいものかどうか検証してみました。

まず、デジタル教科書の検証は次のとおり。国語のデジタル教科書を開くと、画面にテキストが表示され、文字を拡大・縮小することができる。しかし、拡大すると画面から文字が溢れてしまうという難点がある。テキストの一部を拡大することができ、また音声を再生することもできる。他に、字体、行間を自由に設定することもできる。

次に、画像をクリックすると、画像のみのウィンドーが開き部分的に拡大してみることもできる。またキャプションを合成音声で読み上げさせることもできる。しかし、画像の内容を説明はしていない。また、そもそもパソコン操作をしようとしても音声を読み上げないため、視覚障害、特に点字使用者は使えない。

一方、マルチメディアデイジーの検証は次のとおり。音声再生はもちろん、各見出しに行き来することができる。字体や行間を設定することができ、自力でパソコンを操作できる。

次に、点字をデータで読むことはできるだろうか。ピンディスプレイを接続し、マルチメディアデイジーのデータを使って試してみると、音声で内容を読み上げさせながら、同じテキスト情報をピンディスプレイでも同期させることができました。また、音声なしで、点字のみで確認することもでき、単語検索も可能でした。

このように、2種類の媒体を比較すると、デジタル教科書はパソコン操作をはじめ、画像説明がされていない。点字使用者に配慮されていない面が多く、まだまだデジタル教科書には改善すべき点が見受けられました。

マルチメディアデイジーにおいては、製作者の確保、製作作業の負担といった課題が山積しています。

今後改善するならば、教科書会社が発行するデジタル教科書に視覚障害者が使用しやすいマルチメディアデイジーを加えてもらえないか。もしくは、マルチメディアデイジーを国費で保証してもらえるようにしてもらいたい。そうすることで、点字使用の児童・生徒もアクセスしやすいデジタル教科書となるだろうと提言されました。

次に、文部科学省教科書課の春田氏をお招きし、フロアとのフリーディスカッションを行いました。

2020年度から実施される新学習指導要領に合わせて、デジタル教科書の使用が本格的に始まります。しかし、紙の教科書がなくなるのではなく、紙の教科書と併用してデジタル教科書も使用されるということです。また、視覚障害児童・生徒にとってのデジタル教科書の有用性についてはまだまだ検討し、各教科書会社から発行される教科書に点字使用者が使いやすいデータを付与できるよう研究を続けていきたいと、春田氏。

この話を受けて、会場からの質問・意見として、

- ・今後、デジタル教科書を使用するようになると、大学入試の受験方法も変わるのか。

・今回の法改正で、視覚障害、特に点字使用の子どもがデジタル教科書を使おうとしても、先ほどの実演でもあったように、けっして使えるものではない。何が変わったのか。点字の教科書は残してほしい。といった声がありました。それぞれの対応については、今後も課題として受け止め、検討していきたい。そして、紙の教科書はなくなるという説明が春田氏からありました。

続いて、ピンディスプレイを使って児童・生徒が学ぶ可能性はあるかどうか、意見交換されました。

・ピンディスプレイを使用する際の点字データが課題になると思う。できれば、デジタル教科書とともにピンディスプレイで使用できるテキストデータも入れてもらえたらスムーズにいくと思う。

・文字と同様、図の配慮についても検討していただきたい。図が読めるピンディスプレイの開発も進めていただきたい。

・図の説明など、点訳技術においてはこれまで点訳ボランティアが培ってきたノウハウを生かしてもらえるような仕組み作りをしていただきたい。たとえば、教科書会社と連携して点字データを作成することが考えられる。また、データにアクセスしやすい環境を整えるためには、ブラウザの開発も合わせて進めていくことも不可欠。

今後、デジタル教科書がどのように開発され、現場で用いられるのか、当会でも動向を把握し、けっして視覚障害児童・生徒が教育で取り残されないように働きかけて行きたいと思えます。

さまざまなご発言をくださったみなさん、ありがとうございました。

## 【平成 30 年度第 1 回理事会記録】

日 時：平成 30 年 6 月 16 日（土）12：00～13：00

場 所：日本点字図書館

内 容：1. セミナーに関する確認事項と連絡について

2. 秋のセミナーのテーマについて

3. 「教科書点訳の手引き」の改訂と内容の見直しについて

「日本点字表記法」が改訂されるのに伴い、理数記号も変更される。その内容が確定しだい、「教科書点訳の手引き」も改訂する予定。

## 【平成 30 年度第 2 回理事会記録】

日 時：平成 30 年 8 月 9 日（木）13：30～16：30

場 所：日本点字図書館

内 容：1. 平成 30 年度第 2 回セミナーについて

2. デジタル教科書における点字データについて

3. その他

次回の理事会は、12 月 1 日（土）11 時から。セミナー会場で行う。

発行日：平成30年9月27日

発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

ホームページ：<http://kyotenren.web.fc2.com/>

発行人：田中徹二

連絡先：（社福）日本点字図書館 担当：田中・松本

〒169-8586 新宿区高田馬場1-23-4

Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641

E-mail：[matsumotom@nittento.or.jp](mailto:matsumotom@nittento.or.jp)

振込口座番号：0180-7-262151